

2024 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

1 めざす学校像

(1) スクール・ミッション

確かな知識・技能・人間力をもとに未来を切り拓き、社会に貢献する人材を育成する。

(2) 教育目標

- 一、すべての生徒に確かな知識を与えよう
- 一、人間の生き方を教える教育をしよう
- 一、心身ともに健康な生徒を育てよう

(3) 各科・コースの編成（2024 年度）

普通科

- アドバンスコース（選抜）
- 進学総合コース
- メディア情報コース
- 健康スポーツコース

工学科

- 工学理数コース
- 工学連携コース(1 年次)
- 医療電子コース
- デジタルゲーム開発コース
- ロボット機械コース
- IoT 情報通信コース

2 中長期的目標

重点方針 「生徒・保護者に選ばれるための、学力向上と一人ひとりの能力を伸ばす高校づくり」

- 生徒の学力向上
- 生徒の人間力向上
- 授業の質の向上
- ICT を活用した教育の推進
- 大阪電気通信大学との連携
- 女子受験生からも選ばれる学校づくり
- 教育の質向上に繋がる PDCA サイクルの確立
- 離学者の低減
- 在籍者の確保

[illegible]

生徒一人ひとりに適した進路を実現する	●生徒一人ひとりに応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させるとともに、進路相談やキャリア教育を通して進路目標を設定し、その実現に向けて主体的に取り組む力を育成する	ア・個々の希望進路に応じたきめ細やかな進路指導を行い、希望進路の実現を図るとともに、高い進学率の達成を目指す。懇談などを通じて一人ひとりに寄り添った進路指導を実践し、進路の手引きの有効活用や保護者向け進路説明会などにより、希望進路実現に向けた意識を高める。また、全員が外部模試を受験することで、進学意識をさらに向上させる。 イ・「総合的な探究の時間」を活用し、キャリア教育を目的とした活動（オープンキャンパスへの参加、資格取得の奨励、志望動機の明確化など）を企画・実施する。併設の大阪電気通信大学やその他文系大学での体験授業・体験実習を通して、生徒が自らの興味・関心・適性を探り、将来の進路選択につなげる。	ア・進路決定率 95%以上 4 年制大学進学率 70%以上 進路説明会各学年 1 回以上の実施、大学/専門学校説明会(3 学年)の実施 外部模試(年 3 回)実施 イ・大阪電気通信大学、その他文系大学の体験授業の実施 大阪電気通信大学の体験実習の実施	ア・進路決定率 98%(○) 4 年制大学進学率 80%(○) 大阪電気通信大学説明会(各学年 1 回)、大学/専門学校説明会(3 学年)の実施(○) 外部模試(年 3 回)の実施(○) イ・体験授業の実施(○) 体験実習の実施(○)
志願者にとって魅力的な学校をめざす	●安定的な運営基盤に資する入学者の確保 ●女子生徒在籍率の向上	ア・学外説明会や相談会への積極参画を通じ、受験生とその保護者にアピールする。また、エリア別戦略による募集活動を行う。 イ・女子生徒獲得にむけた広報ツールの作成・見直しを行う。	ア・専願充足率 100%の達成と募集人員を上回る入学者の確保 イ・女子生徒在籍率 5%	ア・専願充足率 100%超と募集人員を上回る入学者を確保でき、期初目標を達成（○） イ・取り組みが奏功し、女子在籍率 5.2%となり、期初目標を達成（○）
安心安全な教育環境の整備と持続可能な学校運営をめざす	●事業計画および活動計画に基づき、教育の充実や生徒募集に資する環境の整備を進める	ア・普通科情報教室の機器更新を行う。 （設置機器が古く、最新のソフトウェアを使用できないなど、授業に支障をきたしていた） イ・実習系ネットワークの統合を図る。 （普通科、工学科で個別にネットワークを構築・管理してきたが、管理性の向上によるセキュリティ確保や投資効率改善のため、両科のネットワーク統合を進める） ウ・工学科研究室・実習室の再編を行う。 （工学科募集力アップのため、2026 年度から新教育課程への移行に合わせ、工学科研究室、実習室の再編を行う）	ア・P C、視聴覚設備の更新 イ・ネットワークの一本化と MC2 管理への移行 ※MC2（メディアコミュニケーションセンター）：学園の全学的なネットワーク環境を整備するセンター ウ・工学科研究室の移転	ア・新型 iMac の導入、および視聴覚設備の更新完了（○） イ・第 1 期として、認証サーバーの統合と工学科ネットワーク機器の更新を実現 しかしインターネット出口の一本化、MC2 への移管は次年度に持ち越し（△） ウ・工学科研究室の移転完了（○）

	●業務の効率化を進め、少子化が進展する中でも持続可能な学校運営に努める	エ・WEB 出願を導入する。 オ・生徒手帳を電子化する。	エ・入学試験願書の電子化 オ・紙の生徒手帳の廃止・生徒手帳の電子化	エ・約 6 ヶ月という短期間で web 出願受付の整備を完了（○） オ・Google Drive 上に生徒手帳を格納 iPad 等からの閲覧を実現(○)
--	-------------------------------------	-------------------------------------	--	--

4 学校関係者評価委員会（議事録）

開催日時： 2025 年 10 月 4 日（土）13:30～14:45
開催場所： 大阪電気通信大学高等学校 第 1 応接室
出席者：（学外）杉村委員 牧村委員 横山委員
（学内）麻野委員長 松原委員 唐原委員 小谷委員 内田委員 岡村委員 太尾委員 坂本委員

「2024 年度 of 取組内容および自己評価」および各種アンケート結果（教職員・3 学年保護者・3 学年生徒対象アンケート、全学年対象授業アンケート）等をもとに、学校関係者評価委員会の学外委員（地域代表、保護者代表、卒業生代表）から以下の「学校関係者評価委員会での意見」を頂戴した。

学校評価アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの分析	学校関係者評価委員会での意見
【生徒】 ・学校やクラスの居心地が良いと感じている生徒が多く、本校の特長であると言える。進路指導についても全体的に肯定的な評価が得られている。 ・本校が女子生徒の割合を増やしていく目標を立てている中で、校内の指導において男女で差があると感じている生徒もいるようだ。生徒にとって納得感のある指導が求められる。学校のルールについても一部見直しを求める意見が散見されるが、今後に必要なルールについては生徒たちにそれぞれの意味が伝えられるようにしたい。 ・情報端末についても概ね効果的に活用されていると生徒たちは感じており、そういった学習スタイルが定着している。 ・自主的に学習する習慣の定着については未だ課題がある。また本校生としての誇りをさらに持てるように学校運営を行う必要がある。 ・施設設備が老朽化している声が本年度も見られ、今後の課題である。	・以前に比べ、落ち着いた雰囲気 of 生徒が増えているように感じる。 ・本校と比べて女子生徒の比率が高い高校では、体育祭等の行事でも学校の雰囲気が良い印象を受ける。学校により方針は様々であるが、本校で女子生徒の比率が上昇傾向である点については好ましいことであると受け止めている。 ・地域では高齢者も増加しており、運動部員の活躍などを含め、本校の頑張りを目にする to 勇気づけられる。本校生徒の地域における振る舞いも、高校生として大変望ましいと感じている。地域からの本校に対する評価は高まっている。 ・以前は学校周辺の清掃活動（ゴミ拾い）などを目にする to 多かったが、最近は少なくなっているように感じる。そのような活動にも期待している。 ・過去と比較して難関大学への合格者数がやや減少しているように思われる。2026 年度は新コースの設置や教育課程の見直しなども予定されており、さらなる向上を期待したい。 ・自転車通学者のヘルメット着用指導など、交通安全指導に取り組んでいることは素晴らしい。一方昨年度は交通事故が数件あった to のこと。引き続き指導に取り組ま to たい。また 2025 年度中に学校近隣において工事が予定されており、こちらについても注意 it たく to とともに、町会側としても協力して it きたい。
【保護者】 ・教員が親身に対応していると感じている保護者が多い。 ・学校からの連絡体制、情報端末 of 効果的な活用について多くの保護者から高く評価されている。子どもを本校に入学させて良かった to 考えている保護者も多い。 ・学習習慣が入学後に身についているか否かについては課題が感じられる。	・以前生徒の to ことでトラブルがあった際、本校教員がすぐに対応していた。本校に自分の子どもを進学させて良かった to 思っている。 ・保護者のひとりとして本校の良さをさまざまな場所で PR している。後援会と学校が連携しながら、今後新たな取り組みができれば良いと感じる。 ・本校の校名からは理系の学校である to うイメージ（先入観）があり、本校の教育内容が受験生や保護者たちに浸透しきれていないのではないか。

・施設設備については例年どおり改善を求める声がある。 ・教員の自己評価に比して、資格取得等の取り組みについては低調な評価となっている。	・他校の中には人工芝のグラウンド等を含め、生徒のための環境が非常に高いレベルで整備されているところがある。コストはかかるが、生徒のことを考えると本校もさらなる環境の改善が望ましい。生徒募集にも有効であると考える。
【教職員】 ・学校、後援会、同窓会がそれぞれに協力し教育活動を行っている。さまざまな生徒たちを教員が根気よく指導している。 ・私立の学校としては希少な工学科を擁し、身近な課題を工学の技術で解決しようとする姿勢を育んでいる。学校全体でも ICT に積極的な教員が多い。 ・部活動の活発さ、生徒のトラブル等への対応、保護者への連絡について十分に行えていると自己評価している教員が多い。 ・教員自身も一般的な生徒の学習習慣の形成に課題を感じている。 ・教員集団の中での情報共有、教員自身の資質向上に関してさらなる改善の必要性を指摘する声が見られた。 ・教員の言葉遣いや生徒に対する接し方に注意が必要であるとの声が教員の中でも散見される。時に毅然とした対応が必要であることは論をまたないが、生徒の心情にも配慮した指導が肝要である。	・生徒や教員がよく挨拶をする学校は良い学校である。本校でも引き続き挨拶の励行を推進していただきたい。 ・生徒同士のトラブル等は少ないようだが、トラブルが起きた際にも適切に対応していることが窺える。 ・個人的には、昨今世間で教師と生徒があまりに馴れ馴れしくしている場面があるように思う。校内の生徒指導において時に厳しく指導されていることもあるようだが、本校教員の対応については概ね評価している。 ・生徒に対する言動については細心の注意が必要である。他校でも教員の不適切な言動が問題となっていたりする。本校においても、それぞれの生徒が大切なひとりの人間であるという意識を持ち、言葉がけをしていくことが大切であろう。